

## 第2回 杉並区地域エネルギービジョン懇談会 議事要旨

日時	平成24年10月30日(火)18:30~20:30
会場	杉並区役所中棟6階 第4会議室
出席委員	五十音順、敬称略(◎印は座長、○印は副座長) 浅岡 八枝子、石井 敏康、遠藤 雅晴、◎柏木 孝夫、 小林 義雄、鈴木 伸隆、高口 洋人、寺田 加代子(西田委員代理)、○前川 耀男、柳井 薫 ※欠席 鈴木 廣美、西田 穰、八方 淑夫、
議事	1 第1回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録(案)の確定 2 (仮称)杉並区地域エネルギービジョンの論点整理について 3 その他
配布資料	資料1 論点の整理 資料2 杉並区におけるエネルギーに関連する行政計画について 参考資料 他自治体におけるエネルギー政策に策定状況  資料番号なし 第1回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事要旨(案)

### ■開会

傍聴について、委員一同の了承を得た。また、西田委員が急病のため、西田委員から自身の推薦母体である杉並・地域エネルギー協議会の寺田加代子代表に権限を委任する旨の委任状が提出されたため、寺田加代子代表の代理出席について委員一同の了承を得た。

### ■議事

#### (1) 議事録の確定

第1回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録案について、以下の箇所について指摘があり、訂正することで了承された。

【訂正】P.2 区長挨拶12行目 平成24年5月→平成25年5月

#### (2) (仮称)杉並区地域エネルギービジョンの論点の整理について

資料1、資料2、参考資料について事務局から資料説明を行った後、座長から論点の整理について概略説明を受け、各委員からの意見を聴取した。

座長	<p>資料1は、前回の議論をまとめたものである。</p> <p>まず、エネルギーの創出、省エネ、蓄電、次にスマートコミュニティづくりによる高齢者も安心して暮らせるまちづくり、最後に区民と情報共有し、自主的な参加を進めるとともに、地域対策として区の中で資金とエネルギーが回る取組みのモデル地域を創っていく。他区に対してもモデルケースとなる。</p> <p>最終的な出口としての取組は、住宅地や公共建物をベースに安心して暮らせるスマートコミュニティづくりである。省エネ、コージェネや燃料電池、清掃工場の焼却発電・排熱利用も推進して行く。清掃工場は一つの防災拠点となる。</p> <p>委員の皆様から、ご意見をいただきたい。</p>
B委員	<p>ビジョンではどこまで細かく書いていくのか。例えば、コージェネについてどこに優先的に導入するのか等まで書くのか。</p> <p>区有施設も様々あるが、中圧管に近く、ガス供給の安全性が比較的高いところから優先的に入れる等も考えられる。</p> <p>東京都は、幹線道路沿いの建物の耐震性を確保するため、強力に建て替えを促進おり、そのようなものに絡めて、地域エネルギービジョンを作るのか、課題である。また、建物単体ではなく、杉並区の特徴である人口が多さ、特に夜間人口が多いので停電時の電源を、周辺の住民に対してどのように提供するのか、きめ細かい取組も必要ではないかと思う。</p> <p>区有施設だけではなく、周辺も含め、例えば「安全街区」のような概念等を検討してはどうか。</p>
座長	区役所にはコージェネを設置しているのか。
事務局	500kWのコージェネを設置している。
座長	熱は何に使っているのか。
事務局	吸収式で冷暖房に使っている。
座長	区役所の電力使用量はどれくらいか。
事務局	夏季の使用電力は、1, 200kWくらいで、コージェネで4割程度を賄っている。
座長	うまくいけば、周辺の警察署など、周辺の公共施設との連携が出来るのではないか。

事務局	<p>庁舎の近くには、警察署や消防署があり、将来的にネットワーク化も可能と考える。国も電力の自由化を進めており、グループ企業間であれば、自家発電により必要とする電力を同時同量に発電していなくても、エネルギー融通が可能になったので、可能性はあると思う。</p> <p>警察がグループ企業とみなされるかどうかはわからないが、地域区民センターなどは問題ないと思う。</p>
座長	公共機関の建物は、同一企業と認められるのか。
I 委員	具体的な判断が示されているわけではない。一つの考え方として、公共機関を同一企業として認めるような運用方法を要望することが考えられ、実現可能性はあると考えられる。
座長	<p>儲けるわけではないので、電力の融通はできるのではないかと。特区とする考え方もある。ただ、電線は自前で引かなければならないが、この辺りでは、できるのではないかと。コージェネは、追加する可能性はあるのか。</p>
事務局	スペース的には500kWが上限である。現在稼働中の機器は、平成5年に庁舎を建設する際に入れたもので、今年度、設備更新を行う予定である。
座長	公共の建物から率先して導入することが考えられるが、学校には、あまり熱需要がない。
事務局	病院や高齢者施設、こども発達センターのように、お湯をたくさん使う施設でコージェネを導入することは、有効ではないかと考えている。
座長	<p>福祉施設への導入は効果的である。</p> <p>清掃工場にはコージェネを設置しているのか。</p>
E 委員	スチームタービンを1台導入している。
座長	自家発電に使う他、売電はしているか。
E 委員	半分以上は売電している。
座長	フィードインタリフの対象になるのではないかと。
E 委員	バイオマス利用部分が対象となる。
座長	出来るだけ、また、国が実施している制度に沿って行う方が良い。
事務局	<p>現在、杉並清掃工場のごみ焼却発電の余剰電力は、新電力PPSの(株)東京エコサービスを通じて区内の7校に供給している。</p> <p>また、残りの学校のほとんどが、新電力の(株)エネットから電力を購入している。</p>

C委員	<p>私たちの団体は、杉並区内でエネルギーに特化して8年間、地域に合ったエネルギー政策について活動してきた。</p> <p>私たちが、区民や小中学校で、省エネ・創エネについて話すとき、3点をポイントにしている。</p> <p>一つは省エネ。</p> <p>もう一つは省エネ家電への買い替えや家電を効率的に使用すること。</p> <p>最後の一つが住宅の省エネである。住宅の省エネ化には力を入れて活動してきたが、事業者との連携がうまくいっていないと感じている。一軒の家ではなく、まちぐるみで考える必要がある。</p> <p>エネルギーを利用した快適さではなく、エネルギーに頼らない快適な暮らしができる環境を、まちぐるみでつくる必要があると思う。きちんとした避難道路や緑地の確保などは防災との共通点でもある。</p>
座長	<p>まちぐるみの快適な環境には、光や風など自然の力をうまく利用し、小さな設備でエネルギーを有効に融通しあうことが必要である。</p> <p>事業者との連携が難しいことは、具体的にどういうことか。解決策はあるか。</p>
C委員	<p>解決策を模索中である。省エネ住宅を建てたい区民に対して、建築事業者がどれだけ情報を提供できるのかが課題である。</p> <p>8年前に工務店も含めた建設関係の事業者へアンケートを実施した。回収率は少ないが、情報収集方法がわからないという回答が多くあった。</p> <p>私たちの団体は、区民と事業者が情報を共有し、省エネ住宅を普及させることを目標としているが、事業者が市民団体の活動には乗ってこないのが現状としてある。法律がしっかりすれば、省エネ住宅に取り組まざるを得なくなるのではないか。</p> <p>現在、省エネ住宅の分野で、大手ハウスメーカーのみが先行していることを危惧している。杉並の地域に合った住宅を杉並の工務店が提供できないことは、問題ではないか。</p> <p>地域の工務店のノウハウが向上すれば、家の不具合があった場合に身近な工務店で対応できるし、同時にまちづくりも提案することができる。</p>
座長	<p>まちの区画は区で定めるのか。まちづくりのコンセプトを描くのは誰か。</p>
事務局	<p>都で決める都市計画と区の権限で行うものがある。指導要綱でのエネルギー関連の誘導策について、今後の課題にできないかと考えている。</p>
座長	<p>モデル地区を設けた社会実装が必要である。</p>
副座長	<p>杉並区のエネルギー問題を考えるとき、清掃工場などの公共施設を優先的に考えがちだが、杉並区は典型的な東京都の区部の住宅地であり、一番の資源は住宅である。モデル地区をつくるかどうかも含めて、これまでにない新しい発想で、他区の範例になる</p>

	<p>ような取り組みをやるべきではないか。</p>
座長	<p>区内に再開発地区はあるのか。</p>
事務局	<p>再開発地区はある。例えば、これから公務員宿舎が一般の宅地化をされていく可能性がある。そのようなところで、何らかの誘導策をとれないかと話し合っているところである。</p>
座長	<p>社会実装できるものがあれば分かりやすい。杉並区にスマートレジデンシャルタウンが出来れば、安心して、長く暮らすことができるようになり、良いと思う。</p> <p>清掃の関係でご意見があれば、お願いする。清掃工場をエネルギー拠点としてどう展開できるのか。もしできないとすれば、どうしてできないのか。</p>
E委員	<p>清掃工場で供給できるエネルギーは電力と熱である。効率的な熱の利用は、エリアが限られており、周辺の都市化が進んでいるので、熱の導管の敷設はコスト面からも難しいと思う。</p> <p>清掃工場は、発電が中心となる。形式上は杉並工場の電気を杉並区で使っているとも解釈できるが、実際はわかりにくい。</p> <p>一方で、発電するためにゴミを集めているのかということも言われるが、決してそんなつもりはなく、集められたごみで最大限電力を発電している。</p> <p>位置づけでは、F I Tで収入は増えるが、制度は使うにしても、最大限の発電をして、今まで以上に地域に貢献していこうという思いはあるが、すでに周辺地域は住宅地として整備されているので、これから何かを創っていくのは難しい。</p> <p>安定的にごみ処理と発電を行うために、地域に根差した視点を踏まえつつ、出来る限り良い施設整備をしていく。</p>
副座長	<p>杉並区にあるエネルギー資源の一部は清掃工場だと思う。</p> <p>全国に先駆け発電を始めたが、それをどう地域に還元していくのか考えてほしい。色々課題があることは分かるが、折角、杉並区でエネルギービジョンを作ろうとしているので、積極的に協力してほしい。ただし、できないものはできないと言ってほしい。</p>
E委員	<p>今度の建て替えにより、いままで6, 000kWの発電が、24, 000kWと4倍となる。同じ程度のごみの処理能力で発電量は今までの2倍～3倍となる。現状のごみ量で最大限の発電を行い、PRも行い、粛々と貢献していく。</p>
座長	<p>産業廃棄物との混焼は考えていないのか。</p>
E委員	<p>施設の能力が十分あり、一般廃棄物が大幅に減少し、23区で合意された場合には可能ではあるが、住民の合意も必要であり、現実には難しいのではないかと。</p>
座長	<p>リパワリングはしていないのか。</p>
E委員	<p>通常のごみだと6割程度がバイオマス対象となる。リパワリングの場合は効率が良く発電量は増えるが、バイオマスの割合が減るので、フィードインタリフ制度では有効か分からない。</p>

I 委員	<p>バイオマスと評価する同量のごみを燃やした場合、効率が良くなるので、バイオマスを評価する kWh が増えるのではないか。</p>
B 委員	<p>地震の際、停電となった場合、どのようにふるまうのか決まっているのか。</p>
E 委員	<p>清掃工場は地震が起きた際、防災拠点的な耐震性能を持っており、倒壊しない計算となっている。ただ、ある程度の地震になると、自動停止する。止まってしまうと立ち上げる際に電気が必要となる。稼働すれば発電し、自力で動くことができるが、一旦止まると電気が来ていないと動かない。そのため、工場では発電機を持っている。今は安全に停止するための電力として 1, 0 0 0 kW 程度しかもっていないが、2, 0 0 0 kW くらいあれば立ち上がるかもしれない。</p> <p>もうひとつは、ボイラーを持っているので、水である。水がないと熱を冷やせない。水は蒸発をしていくので、その分を補給しないとイケない。井戸を掘っている工場もあるが、地下水規制も厳しい。</p> <p>震災の時は、ごみがすぐに入ってこないで発電は出来ない。2 3 区には 2 1 工場あり、全て停止することは、想定していない。また、電気、ガス、水道のネットワークが広がっているので、必ず数工場は稼働すると思われるので、通常のごみ処理は問題ない。</p>
A 委員	<p>コージェネと燃料電池による化石エネルギーの高度利用に「ヒートポンプ」を加えたらどうか。</p> <p>節電による省エネの推進とあるが、熱の省エネは考えないのか。また、CO2 削減目標がないが、CO2 は指標としないのか。</p> <p>集合住宅居住者はどのように電気自動車を利用したら良いのか。電気自動車を購入しようとしたら、立体駐車場には駐車できないことが分かり購入を断念したケースもあった。災害対応として電気自動車を導入するだけでなく、運輸部門のエネルギー削減として電気自動車の普及を進めていかないのか。</p> <p>個人で省エネ機器を購入する場合は、助成があっても厳しい。地元の金融機関の協力を得て、イニシャルコストを抑えたリースのような導入しやすい仕組みを区が創設したらどうか。</p>
座長	<p>ヒートポンプはエネルギーの輸送機として良い設備なので加えてもらいたい。</p> <p>電気自動車は、余剰電力や太陽光発電、夜間電力の利用も可能で、電力のフルフラット化や化石燃料の需要も減少できるので、効率的ではないかと思う。リースモデルなどのビジネスモデルについては、ESCO やエネルギーサービス関連などが取り組むと良いと思う。初期コストをなくし、なるべく合理的に省エネ機器を導入、省エネであればあるほど、省エネの割合が多くなりその分でリース料を出していけば、両方ともメリットがある。</p> <p>マンションでは、急速充電スタンドなどを導入するスマートマンションがある。有事の時にバッテリーを持ってくれば充電できる。スマートマンションでは電気自動車はカーシェアリングが導</p>

	入されている場合が多い。
事務局	<p>柏の葉キャンパスを見学したが、駅前の商業施設に急速充電器、電気自動車、電動スクーター、電動アシスト自転車が設置されており、貸出状況から、一定程度の利用がされているものと考えられた。これからは、開発をするときにスマートコミュニティとしてセットで考えていく必要がある。</p>
B委員	<p>カーシェアリングのライバルは、駐車場代である。駐車場代金が高いところでは成立する。杉並では駐車場代が高いため、成立しやすいのではないかと。</p>
F委員	<p>最近が、アパートを持っている人に、屋根を貸してほしいというファンド的な業者が現れてきた。</p> <p>杉並区民53万人のうち、20%が高齢者である。今、太陽光発電の話をして、10年後がどうなっているか分からないし、その後の住宅の設計もあるから難しいと考えている人が多くいる。助成金の一部をLEDシーリングライトの助成に回せば、省エネの推進に繋がる。また、価格が非常に安くなったので、お客さんから相談があったら、LEDを進めるようにしている。1台購入する。蛍光灯と比較し、3～4割省エネになる。考え方によっては、非常に省エネになる。考えると行政の助成の一部を使うことにより、杉並全体の節電になる。節電・省エネの範疇の中に照明器具を助成の対象にしたらどうかと思う。</p> <p>スマートコミュニティ、スマートハウスということでは、電機業界ではパナソニックが神奈川県で創っており、ヤマダ電機が栃木に構想を持っている。さまざまな企業が参入し、スマートコミュニティを実現しようとしているが、杉並で行う場合はなかなか難しいと思う。杉並では、一軒の大きな家がなくなると、6～10軒は家が建つ。最初から太陽光発電が入っている部分とエコキュートは結構入っている。大きな地域でスマート化は難しいが、小さな区画の中でスマートハウス化が出来れば良いと思う。</p>
座長	<p>高齢者には財を持っている方もいる。将来を考えると、太陽光設備など導入することは難しい。高齢化社会におけるエネルギー変換システムの導入をしやすくするような政策とはどうあるべきか。屋根貸し業務も一つ。電機業界がコンソーシアムを組んで、屋根貸しやメガソーラー事業者になるのも良い。そうした事業者を区がオーガナイズするのも良い。</p> <p>今後、考えられることは、太陽光発電パネルの中古の市場である。太陽光発電機器は、何年に導入しどこの製品か、分かる。経年劣化はするが、製品の耐久性能が分かるので、5年しかたっていないならば安心して買ってもらえる。区がリサイクル事業を作ってはどうか。例えば、集めた太陽光発電パネルを学校に設置することも考えられる。</p> <p>中古市場を整備するなど、高齢化社会でも、安心して導入できるビジネスモデルを事業者が創ることが出来れば一番良い。</p>
F委員	<p>今の話の中で、実際に説明に行ったときに、「設置したいけれど5年後のことを考えると難しい。買い取るところはあるのか。」</p>

	<p>と言われた。</p>
座長	<p>本来は、事業者がリースモデルをやるのが良い。杉並ならではのビジネスモデルを作る。区がオーガナイズすれば、事業者も集まりやすいのではないか。一つのソリューションとして、高齢者でも安心して入れられるシステムはどうあるべきか、リースモデルや屋根貸し事業をやってほしいという声かけをして、民間の中でコンソーシアムを作ってもらおう。あり得ることだと思う。</p>
C委員	<p>太陽光発電パネルのリユースの話だが、区との協働事業の中で、「太陽光発電所長のネットワークづくり」をしている。</p> <p>「区内の太陽光発電所長集まれ」というイベントを開催する際に、区内10箇所の太陽光発電機器を設置したお宅の情報提供をしてもらった。そのうちの1軒がリユースであった。その方の父親が建築関係の仕事をしていて、家を取り壊す際に使用できるとの情報があり、それを自宅に載せたということである。</p> <p>このように、情報を知っている人だけではなく、誰でも使える仕組みとすれば、高齢者でも安心して載せられて、かつ資金の無い方でも安く購入することができると思う。</p>
座長	<p>購入年月をUSBに記録させておけば、発電履歴はパソコンで分かる。15年もつと仮定して、15年間で15,000kWh発電できる。電気代が上がっており、1kWh26円。軽く見積もって20円だとして、15,000kWh×20円で30万円。30万円生み出すから、これは20万円の価値があるとか、そういう風にすれば、中古市場が出来てくるのではないか。そういうシステムを民間が考えれば一番良いが、高齢者を狙った詐欺行為などが無いように、信頼できる事業者が行う必要がある。</p>
事務局	<p>東京都で屋根貸しのマッチング事業を始めたので、実情を聞いたところ、手をあげた事業者を信頼して進めるようであるが、区としても注視していきたい。</p> <p>中古市場が成立しない理由を考えると、国も都も新品の太陽光発電機器のみ、助成の対象としていることがあげられる。新品でないと補助金が出ず、付けにくくなる。</p>
座長	<p>高齢化社会でも、安心して手に入れられる再生可能エネルギー機器の導入手段を考えることが課題である。</p>
H委員	<p>論点の整理に記述されている用語が分かりにくい。「地域に賦存する」という言葉は、一般の人には理解しづらいのではないか。また、「スマート～」という言葉がたくさん出ているが、ある程度統一して使用した方が良いのではないか。</p> <p>既に杉並区総合計画では、区立施設の太陽光発電量に関する目標が設定されている。地域エネルギービジョンで設定する目標は、他の施策とも整合性のとれた数値を設定する必要があるのではないか。</p> <p>今度、浴風会病院も建て替えを行い、2年後にコージェネを導入するので、エネルギーの問題はしっかり考えて行きたい。</p> <p>また、杉並清掃工場は杉並のシンボルである。かなり遠いとこ</p>



	<p>ろからも見え、高井戸の煙突＝杉並である。しかも、昭和40年代の後半より東京ごみ戦争の裁判を6、7年行って、住民と和解して23区でできた初めての清掃工場なので、清掃工場は環境のシンボルであると思っている区民は多数いる。実際、杉並清掃工場の隣の区民センターで環境博覧会を毎年行ってきた。そういう歴史においても、未来においても、清掃工場は、清掃一部事務組合から見ると他の区の工場とのバランスはあると思うが、これからの杉並区のエネルギー創出のシンボルになる。こういうことをもっと前面に出してPRしてもいいのではないかと思う。</p> <p>スマートコミュニティづくりのところで、資料2の裏側に都市計画マスタープランを今年度作っている。これと連携しながら、進めて行かないといけないのではないか。都市計画マスタープランの中にスマートコミュニティという言葉がどこにも出てこないようではおかしいと思っている。よく都市計画の部署と連携して検討を進めてほしい。</p> <p>もうひとつ、どこかモデル地域ということであれば、清掃工場があり緑が多く残っている高井戸では都営住宅には都は率先して太陽光パネルを設置している。そうした実践も行われていることを勘案し、スマートコミュニティのモデル地域を是非、高井戸で実施してほしい。</p>
事務局	<p>都市計画マスタープランの検討には、環境課長と地域エネルギー対策課長も部会員として出席している。</p> <p>本日、都市再生担当課長が同席しているので、発言を願いたい。</p>
都市再生担当課長	<p>エネルギーとまちづくりは切っても切り離せないと考えている。都市計画マスタープランの改定にあたっては、エネルギーは大きな柱となる。防災の話も絡んでくるが、防災の面でも環境課とともに一緒に考えて行きたい。まちづくりとエネルギーとの関係だが、私は駅周辺の街づくりを担当している。杉並としては、駅周辺のエネルギーの考え方とそれ以外の住宅地のエネルギーの考え方と分けて考える必要があると思っている。</p> <p>駅周辺に関しては、再開発事業に入れながら緩和策を入れ、インセンティブを働かせて行くなどの手法が考えられる。都心部のような大規模再開発は杉並では期待できないので、地域にあった施策を展開していくことなると思う。</p> <p>肝は住宅地であると考えている。ハウスメーカーの個々の取組みが面的、街区的に繋がっていないという話があって、助成金等の普及啓発活動も限界があると感じている。まちづくりの観点から言うと、区が主体となって地区計画の中で環境・エネルギーをどう取り入れていけるのか考えて行きたい。</p> <p>また、事業者が取り組みたくなるようなインセンティブが働くような仕組みを作らないと、うまくいかない。杉並区は住宅地を多く抱える土地柄、杉並独自のシステムを考えていく必要があると考えている。第1回の懇談会でも話が出ていたが、住宅の中古市場を杉並ブランドの中で、面的なエネルギー対策の仕組みを作っていくとか、大きな街区で開発することが難しいので、個々</p>

	<p>の住宅を面的に取り組んでいくのかということが難しいと考えている。</p>
座長	<p>杉並の資産価値が上がることは、住民にとっては大事なことである。杉並ブランドは、最初にエネルギーができ、デジタル化され、安心安全、自給性が高い街づくりができ、高齢者も安心して暮らせる街、そういうまちづくりをすれば、資産価値が上がる。基本構想に書かれているように、災害に強い街、安心安全、暮らしやすく快適なまちを実現すれば、結果としてこの土地の価値が上がる。これを総称して杉並ブランドとしていけば、非常に良いことだと思う。それには、ある程度条例がしっかりしていないといけない。例えば、条例に、新築物件開発の場合には、再生可能エネルギーに取り組む家が1/3以上であるとか、その場合何らかのインセンティブを与えると、ポイント制であるとか、そうしたことを盛り込むことが考えられるのではないかな。</p>
I 委員	<p>どこにポイントを置くのか、優先順位を考えていくのが、非常に重要と考えている。</p> <p>今回は、コージェネレーションが頻繁に出てくるが、どこに入れていくのか？病院に入れるのか？防災拠点となるような庁舎に入れるのか？あるいは、公共施設なのか？そのときに合わせて熱利用を考えていかなければならないので、どこから順番にどのように展開していくのかを明確にしていく必要があると思う。</p> <p>例えば、論点整理の防災の目標欄に自家発電設備と書いてあるが、検討する場合には、いろいろな条件のもと、コージェネレーションをベースに考えていくことも必要である。目標の設定も細かくしていかなければならない。目標のところで行くと、平成33年のエネルギー消費量を目標に掲げているが、一方で国では、2020年や2030年というスパンでいくので、どうやってリンクさせるのか、区が掲げる年度についてどのポイントで議論していくのがよいのかというのは、一度整理をしたほうがよいと思う。</p> <p>家庭用燃料電池は、kWやkWhよりも、台数がなじむのではないかな。</p> <p>主な論点のところでは、項目としてはすべて網羅されているが、もう少しわかりやすくまとめることができないかなと感じた。例えば、①では省エネが書いてあり、⑤では節電による省エネとある。節電だけで省エネとするのかという意見があったが、省エネの中の一つの柱として節電があるというような区分けになる。④に「災害時やピークシフト対策としての蓄電池の活用」とあるが、蓄電池は確かにそうだが、コージェネや燃料電池などもピークシフトの効果やものによっては災害時の効果があるので、うまく整理するとわかりやすくなると思う。</p> <p>蓄電池に関して話をすると、単独では蓄電池のよさを発揮できないと思うので、例えば太陽光と組み合わせる、コージェネレーションと組み合わせることで、長時間にわたり災害時でも大きな効果を発揮する。電気自動車でもプラグインハイブリッドでも同様である。せっかく導入するのであれば、効果が発揮しやすいよ</p>

	<p>うなものをより評価するような形を考えていくほうがよい。</p> <p>それから、再生可能エネルギーのところでは、太陽熱の利用について、太陽光発電より手軽な再生可能エネルギーとして、掲載するほうがよい。</p> <p>LEDなどの照明について、台数や箇所数で評価することもあるが、使用して効果が発揮されることがあるので、例えば一番長く使用している照明を考えると、外灯であったり、マンションの共用部の照明であったり、長く使用しているところにインセンティブを導入するような考えがあったらよいと思う。インセンティブは、補助金となってしまいがちだが、財源も限られているため、外部にPRすることを行政として取り組む。このマンションの共用部はLEDになっていることをPRし、マンションの評価手法を東京都では考えているが、こういうものとうまく組み合わせ、できるだけ長く使うところに省エネ機器が導入されることを評価するような仕組みを考えたら良いと思う。</p> <p>6番目にある杉並の清掃工場だが、過去の歴史や迷惑施設の部分が気になり、胸を張ることが難しい部分があるのは理解できるが、ある意味ネガティブなものをポジティブなものとして、住民にも役立つ施設である、これを契機にPRできるようになったら素晴らしいと感じる。例えば、非常時に発電ができる。急速充電器があり、プラグインハイブリットや電気自動車に充電をして、別の場所で利用する。区の施設でもある程度の規模があれば、自家発電設備やコージェネをもつことで、災害時にも動ける。電気自動車のよいところは、移動可能な蓄電池であるところで、清掃工場の電気を利用できれば、必要な所に移動させて電力供給できるので住民にとって魅力的な設備になると思う。空冷の冷却施設をもっていると思うが、補給水が必要であるとか、ごみのストックが何日分あるのか、ということがあがるが、その時はフル負荷で運転する必要はなく、最低限の量を燃やしながら発電できれば、住民にとってありがたいと評価できるのではないかと。住宅のモデル地区であるが、高井戸が候補の一つと話があったが、確かに浴風会があり、清掃工場があるので、候補の一つであると思う。</p> <p>そのほか、杉並のブランドを考えた時には、杉並の高級住宅地のイメージが大事で、荻窪駅周辺や浜田山なども杉並のブランドであると思う。住宅のモデル地区も合わせてつくり、太陽光、太陽熱などを利用しながら、あるいはその地区にある区の施設にコージェネを入れ、万が一の際に非常用の発電を含めた住民が利用できるようなブランドづくりを考えられればと思う。</p>
座長	わかりやすい言葉を使ってまとめていきたい。
副座長	本日の資料は、最初から整理することは可能であるが、素材のままでお示しして、総論的なご意見をいただき、次回以降、今回の議論を踏まえてまとめていただきたい。
座長	前回の各委員の意見を忠実に書かれていると思う。そういう意味で皆さんにどんどんご意見をいただきたい。
E委員	杉並工場については、過去の裁判の状況も理解しており、責任

	<p>をもって運営している。建て替えにあたっては皆さんから頂いた意見を最大限活用するし、太陽光発電パネルも入れ、緑化も推進している。</p> <p>住民の意見を入れて、よりよい工場とするため、既に説明会も終わり、契約も終了し、実施工事も入っているので、計画の推進の中で更によりよくするようなものがあれば、やっていく。地元の皆さんと力を合わせて、よりよい工場とするために計画を着々と進めているので、その点についてはご理解いただきたい。</p>
J 委員	<p>目標について、以前の地域省エネルギービジョンでは、CO2削減の目標値を－２％としたが、現実には達成できなかった。ビジョン策定後早い時期に到底達成できない目標と分かっていたが最後まで－２％を変更できなかった。今回のビジョン計画期間は33年度を目標年次にしなくてはならないのか。変化の激しい時勢にどこかで見直しできるような時期を作り、目標数値は達成できるほうが良いのではないかと思う。</p> <p>区民への「情報提供と自主的な参加促進仕組みづくり」のところが自分たちの活動に関係している。地域エネルギービジョンは中学生が読んでも理解できるものとしてほしい。杉並で育った中学生は、エネルギーのことが語れるように育てていけたらよい。彼等は10年もすれば社会人になる。次代を担う子供の教材にできるとよいと思う。</p>
座長	<p>人材育成し、エネルギーに対し卓越した知識をもつという人材育成プログラムは必要である。言わば、スマートスクールで、そこで育った義務教育の子供たちは、卓越した知識を持つといったプログラムがあってもよいと思う。</p>
副座長	<p>本日は、非常に活発な意見をいただいた。今日は意見を言っていたいただき、次回以降に生かしていく。</p> <p>私が、計画策定の際に心がけたのは、現状が書いてあるのが一つ。ただし、現状に追随するだけでだめである。新しい目標値を定めることである。ただし、具体性が不可欠である。形だけ作るとは簡単であるが、そうではなく、このようなメンバーで議論する機会はまずないので、杉並区でなければ打ち出せないことを進めて行くことが必要である。杉並の一番の資源は住宅である。それに清掃工場もあれば、東電グランド跡地もあり、区の庁舎もある。そういうものをベースに、杉並区でなければ打ち出せない具体的な目標を創る。目標というのは区民に分かるものでなくてはならない。例えば、災害があった時、エネルギーに関しては、杉並区に行けば大丈夫である、といったこと。夢があって具体性のあることを目標としたい。それを踏まえて、課題を出していただいた杉並ブランドであるとか、中古市場の問題であるとか、そういうことを生かした具体策を作る。杉並区でここしかないというものを打ち出すことが、23区をリードすることになる。日本のエネルギー政策にも貢献できる余地があると思う。</p>
座長	<p>具体的にやはり社会実装である。実証をたくさんやっているのので、できるだけ社会実装をする。実装するには、規制改革があっ</p>

	<p>たほうが斬新なものができる。安全などについては、規制があったほうがよいが、規制を緩和すればもっと良いなるものとなるのであれば、規制改革すると、景気も良くなる。そうなるとアライアンス、連携が必要になってくる。連携するためには、具体的なサイトがないと空論で終わってしまう。</p> <p>ステップは高井戸清掃工場ではないか。取り組まれている状況はよくわかった。今までは、平静で周りの住民に迷惑をかけないよう、住民との合意形成論を作ったと思う。そのノウハウをうまく使いながら、他の業界に人を集め、新しいアイデアができて、清掃工場の前に高井戸小学校がある、ごみ焼却炉のある美しい地域をつくる。スマートスクールを創る。周辺地域については電力が無料にするなどの斬新なアイデアも考えられる。</p> <p>また、浴風園にはあれだけの緑があり、お年寄りが生き生きと暮らしている。高齢化社会になることは間違いないので、浴風園にエネルギーセンターを配置して、周りの家をスマート化し、ストックのグリーン化を行ってはどうか。いくつかの拠点を作って、少しずつターゲットを絞り、アライアンスを組んで進め、フェイズ2に落としていくことが考えられる。</p>
B委員	<p>太陽光発電機器を設置するときに、景観と絡めて何かできないか。電柱の地中化や配線を家の裏側を通すなどのインセンティブを付与できればよいと思う。電柱の影がパネルに落ちないなど一石二、三鳥となるのではないか。</p>
座長	<p>そうすると景観の良い街づくりができる。</p> <p>今日の意見を加え、次回に臨みたい。気がついたことがあったら、事務局に連絡していただきたい。</p>

### (3) その他

次回の第3回杉並区地域エネルギービジョン懇談会は、1月8日（火）18時30分からの開催とする。